

VIII 校内研究と授業を結び付けるための環境整備

VIII-① 授業を補充・深化する環境づくり

A小学校

算数科の研究を進めてこられたA小学校では、授業研究会をその場限りで終わらせるのではなく、「量(長さ・広さ・重さなど)についての感覚を豊かにするための環境を整えることが必要だ」と全ての教員で共有されました。そこで、子どもたちの日常にどのような環境を整えるかといったことが話し合われました。そこで、昇降口や廊下など子どもたちが目にする場所に学年に応じた掲示物等の環境が整えられました。



10cm × 10cm
100cm²

拡大 1m × 1m
1m²
||
100cm × 100cm
10000cm²

1g...1円玉 1まいと同じ重さ

1円玉が	10まい.....10g
	100まい.....100g
	1000まい.....1000g

1000g = 1kg (キログラム)



授業研究会と子どもたちの学びをつなげています!



「重さ」に関する掲示物と展示物

あつかった! 東京オリンピック

重さはどれくらい? シリーズ①(トーチ・メダル編)

聖火リレーのトーチ
重さ: 1.2kg (アルミ製)

メダルの原材料は
金・銀・銅・亜鉛などの金属

銀メダル: 約550g
銅メダル: 約450g

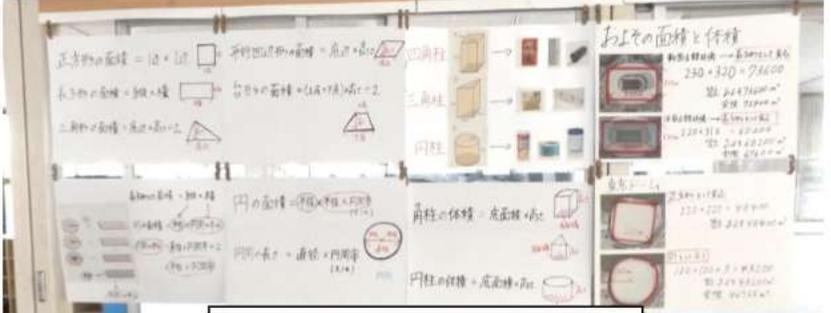


重さはどれくらい? シリーズ②(重さ g編)

オリンピックの競技種目の中で、道具を使うものはたくさんあります。その道具の重さを集めてみました! 物の重さ感覚をイメージしてね!

- 卓球ボール: 2.7g
- バドミントンシャトル: 4.74~5.50g
- テニスボール: 56.0~59.4g
- 野球ボール: 141.7~148.8g
- サッカーボール(5号球): 410~450g
- バスケットボール(7号球): 567~650g
- ごり投げ 男子: 800g 女子: 600g

教室には、学習したことが掲示物で残されていて、授業中には「あそこに書いてある」とつぶやく子どもの姿も見られます。



既習事項を確認できる掲示物

VIII 校内研究と授業を結び付けるための環境整備

VIII-② 研究通信の発行と授業動画の活用

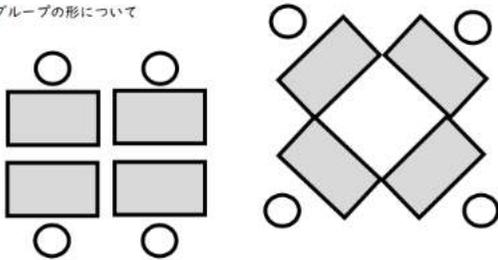
E小学校

E小学校の校内研究主任は、定期的に研究通信を発行しました。研究通信には、主に校内研究主題に関わる内容や授業研究会の内容が記載されます。授業研究会のことを記載した通信には、主に授業における児童の姿とその捉え、授業協議会で話題になったこと等をできるだけ早く（研究会の翌日）発行し、成果と課題を全ての教員で共有します。そのことにより、共通して実践する事柄を確認したり、既存の知識・技能や取組に改善を加えたりして、新たな実践を継続的に積み重ねることができました。

つなぐれ！！ 通信 小学校 校内研究通信 No.31

2学期グループ学習の始まりにあたって②
 コロナウィルスの感染状況が厳しい状況が続いています。学校現場においてもより一層の感染症対策が求められます。すべての子どもの学びを止めない、学びを保障する授業づくりのために、子どもたちの対話の場面に關しての共通理解をしていきたいと思います。

1. グループの形について



4人になる時は机同士の間を開きましょう。子どもたちが間を意識できるように床に印があるといかも知れませんが、覗き合っているうちに自然に距離は近くなってしまいがちです。声掛けをして距離をおいて対話ができるようにしましょう。

2. コミュニケーションの媒介について

課題や資料、ヒントカードやワークシートは、できるだけ個人に配れるようにしましょう。印刷物やノートと並行してタブレットを積極的に活用しましょう。オクリンクで自分の書いたワークシートやノートを撮影して送ると、グループやクラス全員で共有が可能です。友だちの書いたものが自分の手元で見れるという環境は対話を生み出す可能性を大いに広げます。同時に友だちのノートを覗き込まなくてもよいという意味では、密な状況避けられます。やってみる中でよりよい方法やアイデアも生まれてきます。先生方で協働的に取り組む中で、よりよい対話の在り方、子どもの安心の生み出し方を探っていきましょう。

3. さらに感染状況が悪化した場合には…
 感染状況の悪化に伴い、対面の形が制限される状況が生まれるかもしれません。その

つなぐれ！！ 通信 小学校 校内研究通信 No.39

先生のご授業から学ぶ
 10月13日（水）5校時、理科室にて5年5組の理科「流れる水のたはら」の授業公開、14日（木）放課後、授業研究会が行われました。（動画はNドライブ→R3→みなさんどうぞ→校内研究→授業ビデオの中にあります。）
 理科の授業で何よりも大変なことは準備に時間を要してしまうこと。動画や教師実験ではなく、すべてのグループでの学びを保障するための実験や観察の準備の時間をいかに確保するかは、日々の授業づくりの取り組みの中で大きな課題となっている部分です。しかし、今年度、先生に理科の専科として授業に入っていただくことで、高学年の先生には時間の余裕が生み出されています。しかも、その準備は非常に丁寧に、予備実験に基づいた学びの場、教材との対話の場が子どもたちに保障されています。（理科室が大変きれいに、使いやすくなったことも私たちは先生、観察実験アシスタントの皆さんに感謝しなければいけません。）
 さて、今回の実験は、流れる水の働きを調べるもの。S字のカーブの深さや長さ、傾斜をつけるための下に敷くおぼんの高さ、土の質、流す水の量まで計算された実験のセットが用意されています。



セットできたグループから実験が始まります。①タブレットで実験前の写真を撮る ②実験を行う ③動画で撮影する ④実験の様子を観察して記録する ⑤実験の結果をまとめる 黒板の板書が子どもたちの学びを進めていくロードマップになります。
 慎重に水を流すA、タブレットで動画を撮影するB、一緒にタブレットを覗き込むC、ぞうきんをにぎりしめながら、水の流れる行方をじっくりと見守るD。それぞれの役割分担が行われ、実験がしっかりと進んでいきます。
 流し終わったS字カーブの一部を指さすA、4人の視線がそこに集まり、対話が生れます。教材との対話が他者との対話を生み出し、他者との対話が教材との対話を生み出す瞬間です。
 「じゃあ、動画見よっか。」とB。今自分たちが対話のなかで確認したことを、時間軸を戻してもう一度確認し合います。BとCはこの後、何度も動画を再生

動画の保存場所が明記されています。

校内研究主題に関わる内容が書かれた校内研究通信

授業研究会の内容が書かれた校内研究通信

校内研究主任が教師用端末を活用して授業動画を撮影し、授業研究会で活用した後、動画は校務支援パソコン上に保存されました。そのことで、授業を参観できなかった教員もいつでも学ぶことができるようになっていました。また、校務支援パソコン上の掲示板を活用して、参観した授業から得た自分の学び等を授業者に向けて書き込めるようにされたことは、互いの学びを共有できる場となりました。



教師用端末で授業の子どもの様子を撮影する研究主任

いつでも視聴可能



E小学校教員

全ての授業研究会に参加することは難しいので、校内研究主任から発行される研究通信と照らし合わせながら、授業のポイントとなっている場面や気になったところを、授業の動画を見ながら学んでいます。